



モユク★カムイ 46

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

FEB 1997



あさひやまどうぶつはしニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その7 タチョウ 2.3

特集

第28回児童
動物画コンクール
入賞作品 4.5

飼育研究レポート

「30年を振り返って」 6

動物園事情

VETニュース 7

クイズ

できごと

おしらせ

編集後記 8

旭川第7小学校
板垣 綾さん



ぼくは、

動物大使

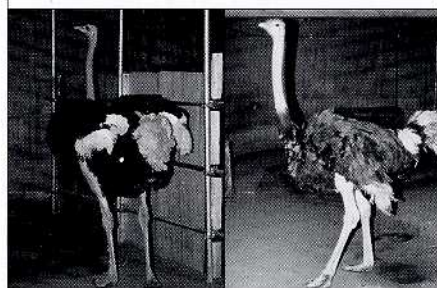
その7 大平原のスプリンター ダチョウ

ダチョウ

Struthio camelus

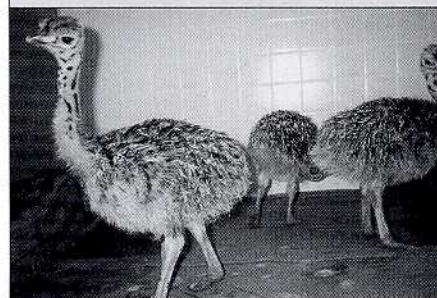
アフリカの半砂漠、サバンナ地帯に分布し、4つの亜種に分けられる。アラビアにも生息していたが、20世紀初めに絶滅した。言わずと知れた、鳥類最大種で、飛べない鳥である。

旭山動物園のダチョウ倶楽部



イダ ♂ 9才 2号 ♀ 2才
性格はきかん坊
♀のはずがだんだんおみたになってきた……不安だ!

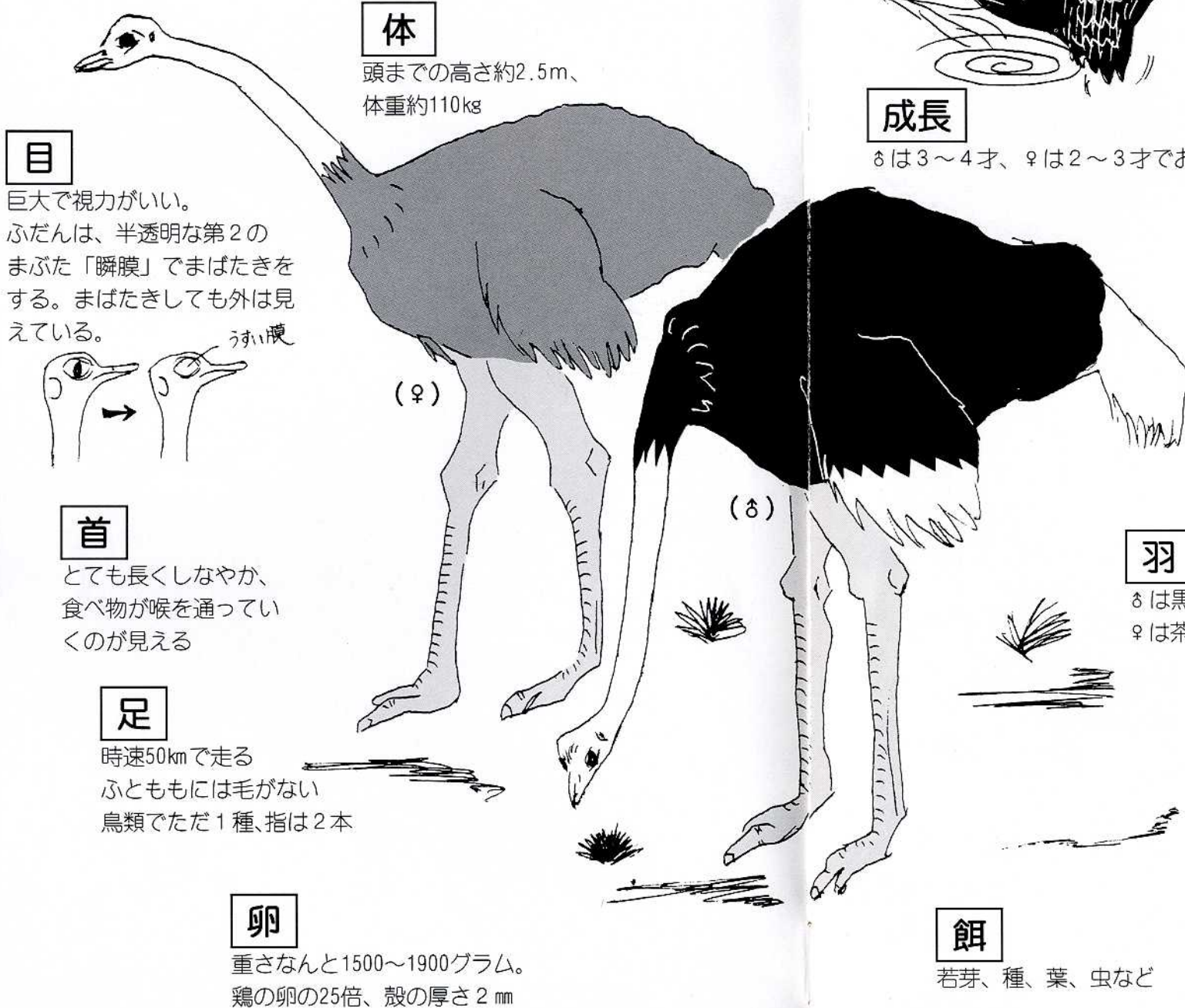
平成5年に旭山動物園で初めてダチョウのひなが孵化しました。孵卵器で卵が孵化するまでに42日かかりました。



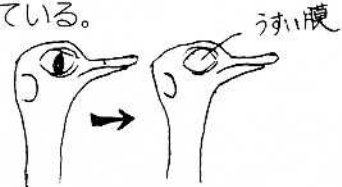
さて今年は何?

1番小さな卵!?

ダチョウの卵は重さが1500グラムもあって、鳥類最大の卵ですが、親の体重が110kgもあるので、親鳥の体重に対する卵の重さは約1.3%しかありません。ニワトリは2.5%、アヒルは3.5%で、比率で見ると鳥類最小の卵になります。



目
巨大で視力がいい。ふだんは、半透明な第2のまぶた「瞬膜」でまばたきをする。まばたきしても外は見えている。



首
とても長くしなやか、食べ物が喉を通っていくの見える

足
時速50kmで走る
ふとももには毛がない
鳥類でただ1種、指は2本

卵
重さなんと1500~1900グラム。
鶏の卵の25倍、殻の厚さ2mm

体
頭までの高さ約2.5m、
体重約110kg

飛べなかったって、そう、鳥類!

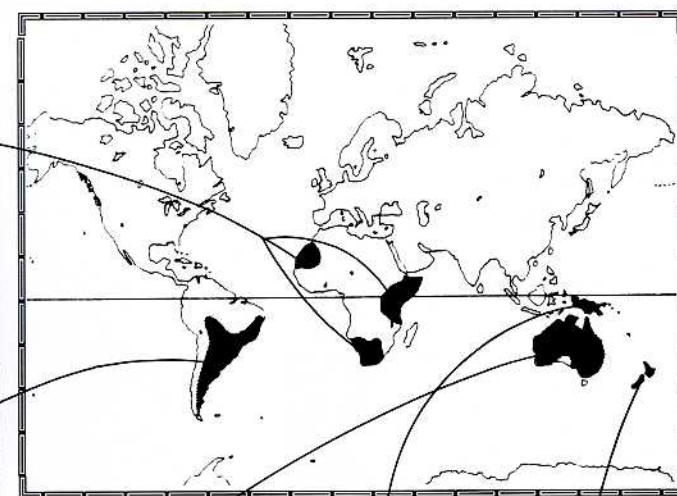


成長
♂は3~4才、♀は2~3才でおとな

羽
♂は黒く羽先と尾羽は白い
♀は茶色

餌
若芽、種、葉、虫など

ダチョウなど、飛べなくて陸上を走る鳥の仲間を走鳥類と呼んでいます。



アフリカ代表
ダチョウ



南アメリカ代表
レア



オーストラリア代表
エミュ



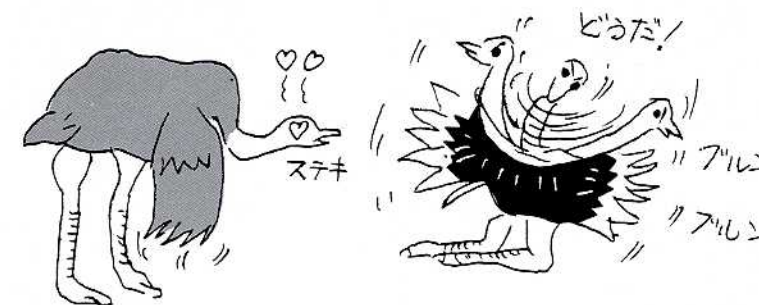
ニューギニア代表
ビクイドリ
(オーストラリアの一部も)



ニュージーランド代表
キーウィ

派手なプロポーズ

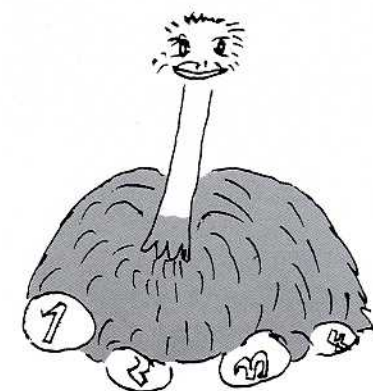
オスはメスに向かって羽を広げて座りこみ、首を左右にブルブル振り回すという変わったダンスを踊ります。合格ならば、メスは立ったまま頭と翼を下げて翼を震わせませす。これでカップル誕生です。



巧みな抱卵

オスは縄張りの中に、たくさんの巣(地面にくぼみをつくる)を作ります。縄張りの中で一番強いメスが、気に入った巣の1つに卵を産みます。そうすると他のメスたちも同じ巣に卵を産みます。ところが抱卵は、1番強いメスとオスだけが行い、他のメスは何もしません。どうしてでしょう?

1. ダチョウは産まれてくる雛の性別が片寄っていてオスが少ないため、番になれないメスが出てしまう。
 2. 1番強いメスにとっては、他のメスの卵も一緒に抱くことで、自分の卵を外敵に捕られる確率を減らすことができる。
- また、1番強いメスは、卵がごちゃ混ぜになっても自分の卵を識別できて、余りにもたくさんの卵が巣にあるときには、他のメスの卵を巣から出してしまいます。



第28回 児童動物画コンクール

🐵 入賞おめでとう! 🐯

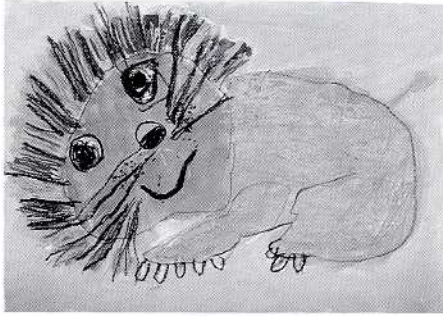
幼児の部

旭川市教育長賞



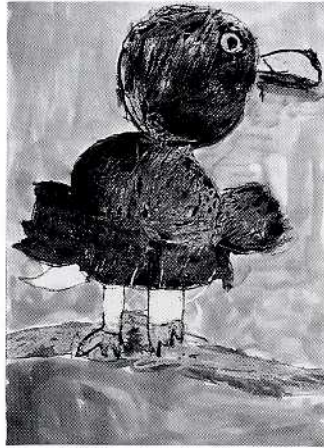
らんけい保育園
長澤 史悠くん

旭川市長賞



近文生活館保育園
八谷 未来さん

マルカツ賞



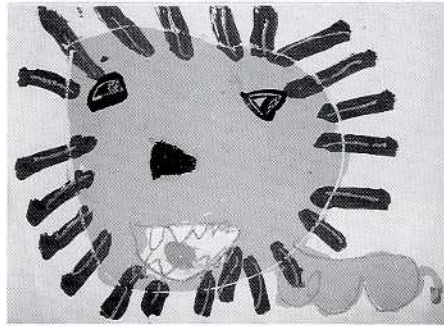
近文生活館保育園
高橋 優祐くん

道新旭川支社賞



近文生活館保育園
山田 広美さん

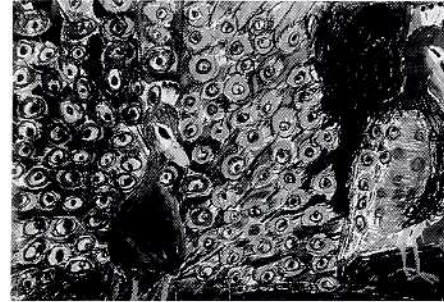
旭山動物園賞



きくし幼稚園
坂井 晃子さん

中学年の部

旭川市教育長賞



教育大附属小学校
坂田 佑羽くん

旭川市長賞

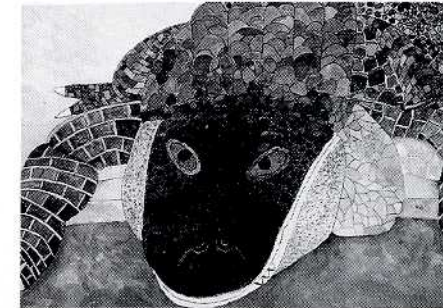


雨分小学校
高山 拓弥くん

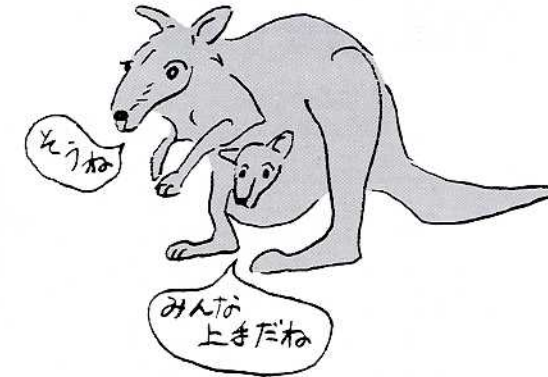
道新旭川支社賞



マルカツ賞

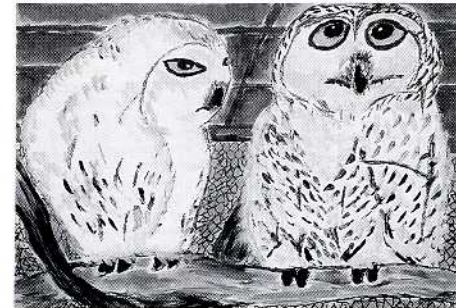


陵雲小学校
今野 優衣さん



新富小学校
三井 洋輔くん

旭山動物園賞



雨分小学校
長尾 美紀さん

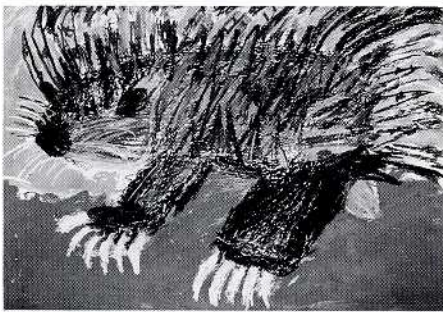
低学年の部

道新旭川支社賞



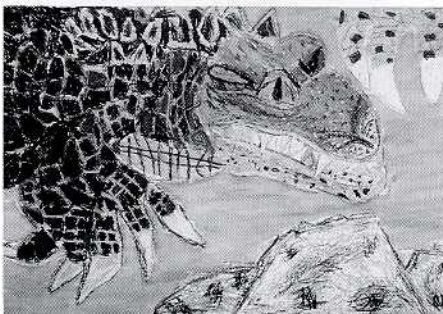
神楽岡小学校
細川 直くん

旭川市長賞、日動水協会賞



永山東小学校
たつみこうすけくん

旭山動物園賞



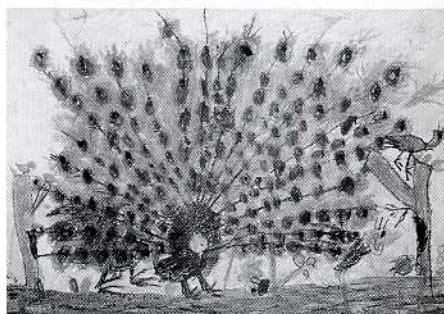
旭川第7小学校
板垣 恵一くん

旭川市教育長賞



教育大附属小学校
西尾 佳恵さん

マルカツ賞



朝日小学校
まつもとしょうごくん

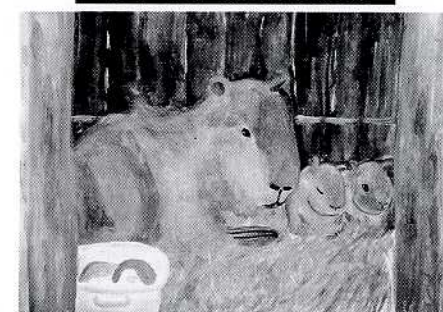
高学年の部

マルカツ賞



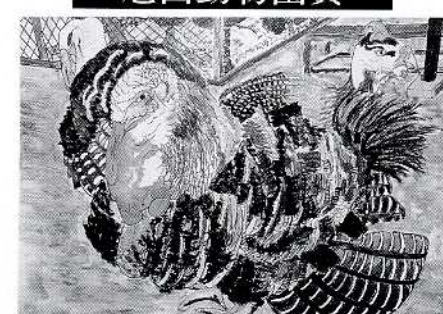
旭川第7小学校
板垣 綾さん

旭川市教育長賞



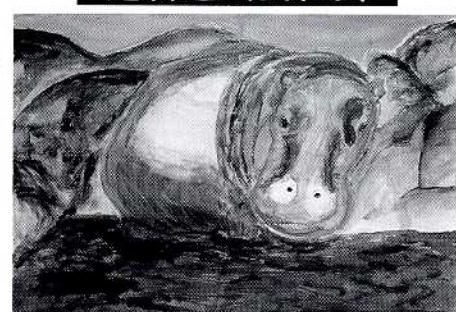
新富小学校
山田 沙斗美さん

旭山動物園賞



雨分小学校
小平 智恵美さん

道新旭川支社賞

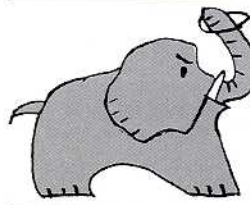


近文小学校
立原 潤くん

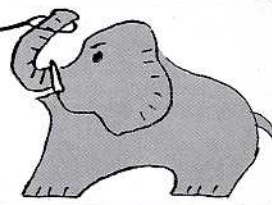
北海道知事賞、旭川市長賞



雨分小学校
鷲尾 明香さん



飼育研究レポート



30年を振り返って

旭山動物園で飼育係として30年、この3月で定年を迎える。1967年(昭和42年)7月1日、思えばずいぶんたくさん動物たちとつき合ってきた。いちばん思い出の深い動物は何かと聞かれれば、私は迷わず「チンパンジー」と答える。メリーという名のチンパンジーが山口県・徳山市動物園から旭山に開園1周年記念としてやってきた。芸達者なチンパンジーで、10日間調教師が披露した後、担当になった私に引継ぎしてくれた。環境が変わったのが原因だったのか、メリーは1週間ほどで死んだ。ものすごいショックだった。落ち込んでいる私を元気づけようと思ったのか、当時の園長が旭山に居たゴクウという名のチンパンジーを調教してみないか、とすすめてくれた。ゴクウは3才のメスだった。それからの1年間、私はゴクウの調教に没頭した。朝は仕事が始まる1時間前に出勤し、夕方は同僚たちが帰った後、夜遅くまでゴクウと一緒に過ごした。私は当時30歳代前半で、動物園が開園した年の12月に長男が生まれたばかりだったので、妻に「自分の子供と、チンパンジーとどっちが大事なの!」とよく言われたものだ。

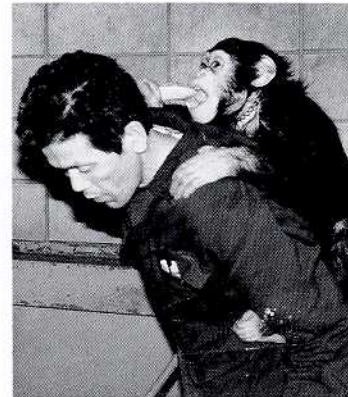
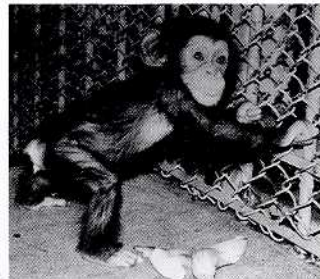


ただ今
特訓中



デビュー

調教は2本足で立つことから始まった。初めてのことであったので、試行錯誤の連続だった。2年間の調教で、ゴクウは綱渡りや樽乗り、竹馬、三輪車、そしてオートバイに乗るまでになった。また、テーブルに座ってフォークを使ってバナナを食べたり、マラカスを手に音楽に合わせて踊ったりするようになり、来園者たちを大歓びさせた。毎年、動物園が開園する前に私とゴクウは職員たちと一緒に観光キャラバンをくみ、名古屋や北見市、滝川市など道北・道東の町にPRに出かけたものだ。どこに行ってもゴクウは人気者だった。ゴクウのショーは1969年(昭和44年)から4年間続いた。私が休みの日も、幼稚園の子供たちがどうしてもチンパンジーのショーが見たいという要望に答えて出勤したこともあった。

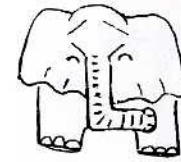


誕生

昭和48年、ゴクウも9歳の適齢期を迎え、おびひろ動物園からキーボという名のチンパンジーがお婿さんとして入園した。1981年8月16日、ゴクウとキーボの初めての仔「リノ」が誕生した。リノは元気に育ち、1986年3月10日には「リキ」が産まれた。リノは1988年に神戸市立王子動物園に嫁いで行った。去年の10月私は出張で神戸に行った折り、リノに会いに行った。もう8年も会っていないのだから、私のことなんか忘れていたのかもしれない。だが、リノは自分の子どもを抱いて、私に見せに来てくれた。私は涙が出るほど嬉しかった。ゴクウは1989年、26歳で死んだ。ゴクウのおかげで職員表彰を受けたことは一生忘れられない。今ゴクウは、園内の動物資料館に展示されている。

3月で退職するが、何等かのかたちで動物園に関わって行きたいと思う。30年間、語り尽くせない体験をさせてくれた動物たちに恩返しをしたいと思う。

(曾我部 義光)



動物園事情



年老いた個体

動物園では、赤ちゃんを連れた動物が人气的である。一所懸命に子どもを育てている母親の姿は、確かに見ている者に感動を与えずにはおかない。従って、動物園から発せられるニュースも“赤ちゃんが誕生しました”式のものが受けが良い。テレビ局なども春には、こぞってベビーラッシュを報道している。

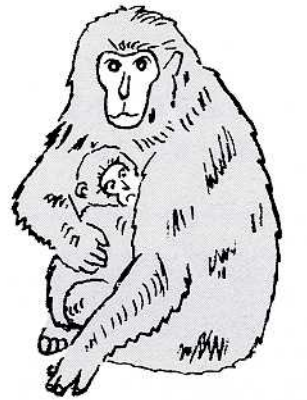
若さみなぎる生命力を見ることは、自然と心とむもであろう。その逆に、繁殖年齢を過ぎ、いわゆる余生を送っている老齢個体は、燃え尽きる生命を見せられる思いがするのだろうか、話題にならないばかりか、かわいそうに感じられてしまうようだ、敬老の日以外には、そこで、老齢個体を展示をしない方針を打ち出してしまっているのではないかと疑ってしまう。

もしも、立ち上がるのがやっとならぬ、寝室と放飼場の移動だけしかできないような動物が展示されていたとしたら、皆さんはどう思いますか? 「入院させなさい」とか「展示すべきではない」と考える方も多いと思いますが、いかがでしょう。

それでは、動物園で生まれ、動物園で子どもを育て、立派に命をバトンタッチして、死んでいこうとしている動物に「見苦しいから病院で死になさい」、「どこか見えないところで死んでちょうだい」と言っているようなものだ。

私は、動ける間は普段の生活をさせてやりたいし、死ぬときにはすみ慣れた自分の寝室で死なせてやりたいと思っている。

死を見えないところへしまってしまうことが、生命を大切にできる心が育たないことに通じていると思うのだが……。



動物病院 VET ニュース



旭山動物園では現在4頭のホッキョクグマを飼育しています。オスとメスの2組のペアがそれぞれ仲むつまじく……。皆さんよく考えると不思議ではないですか? ホッキョクグマは元来、広い範囲を単独で行動する動物です。繁殖期など限られた場合しか他のクマと接触することはありません。その彼らが1年中限られたスペースの中で一緒に暮らしているのです。どうです、不思議でしょう?

実はこれにはタネと仕掛があるのです。それがペアリングです。ペアリングは繁殖のためにメスとオスを合わせるいわゆるお見合いの場合がほとんどですが、飼育スペースの問題を解決するためにメス同士、大人と子供といったさまざまな組合せで行なう場合もあります。



ホッキョクグマやトラなどの肉食動物の場合は特に気を使います。彼らのほとんどが単独生活者であり、とても攻撃的だからです。ペアリングのためには、まず十分な食べ物、安心できる環境、そして決め手がトランキライザー、いわゆる精神安定剤です。攻撃的な感情を抑制して、同居を開始します。初日は2時間、次の日は3時間といった具合で同居時間を長くしていきながら、トランキライザーの量を減らしていきます。2週間ほどで薬がなくなってもお互いに折り合いをつけて同居できる様になります。

現在、おばあさんトラの濃姫と去年の6月に大阪市天王寺動物園で生まれて当園にやってきたノンのペアリング中です。今年の春には仲よく遊ぶ姿をお見せできることと思います。

クイズ

この動物が入っている動物舎は、外の放飼場の他に寝室を設けていて、夜は動物を寝室に収容する。天井にはアミを張らないと脱出するので、放飼場、寝室ともオリで囲っている。野生では樹上生活なので止まり木を入れている。施設はいい加減だと動物が開けてしまうので、しっかりした物を取り付けている。寒さに弱いので、冬は外に出さず、寝室には暖房が必要である。

さてこの動物舎に入っている動物とは次のうちどれでしょう。

1. ミシシッピーワニ
2. ジェフロイクモザル
3. インドクジャク

45号の正解は2番でした。
キーホルダー当選者
神戸市 長谷義照さん
江別市 仲尾有加さん
旭川市 川添宏明さん



正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製エゾシカの角キーホルダーが当たります。

応募方法はハガキに答と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。
応募×切 1997年3月20日

できごと

- 10月25日 チュウゴクオオカミ 耳の治療
- 11月6日 チュウゴクオオカミ 老衰で死亡
- 11月29日 アムールトラ ペアリング開始
- 12月15日 ホッキョクグマ出産
- 12月17日 ホッキョクグマの仔死亡
- 12月26日 ドブラ血尿 治療・検査
- 1月11日 ライオン♀死亡(老衰)
- 1月18日 ライオン♂死亡(心不全)



飼育動物数

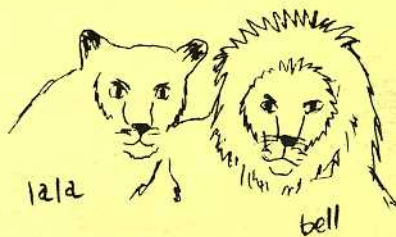
(12月31日現在)

哺乳類	47種	190点
鳥類	103種	512点
爬虫類	10種	33点
合計	160種	744点

お知らせ

◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として130円切手4枚を同封して、旭川市旭山動物園モユク・カムイ係までお申し込みください。



編集後記

ライオンが、相次いで死亡しました。♀は去年から脳の発作を繰り返していましたが、最近では症状も安定していたやさきの死亡でした。その1週間後♂が急死しました。解剖した結果、心臓がかなり衰弱していましたが、症状は現われていませんでした。

当園のライオンは2頭とも16歳でした。老齢ではありましたが、特に♂はあと2〜3年は大丈夫と思っていました。長年連れ添った♀がいなくなって後を追ったとは思えません。精神的な張りを失ったのでしょうか。動物は年老いてもあまり外見にでませんから、いつまでも元気であるような錯覚を覚えます。ライオンのように大きな動物が死ぬと、時の流れを実感します。

モユク・カムイ No.46 平成9年2月20日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
発行 小菅正夫
編集委員 坂東元・中田真一・松島守・辻松淳二
印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653